

講義コード	11C0122600	授業形態	講義	事前登録の有無	なし	担当教員		開講期	
科目名	資源エネルギー論2					佐々木 宏一	第2期		
履修前提条件						備考			
授業の目的	2011年3月11日の東日本大震災直後は、エネルギー問題が注目されていたが、6年が経過した現在は、興味が薄れつつあると共に必ずしも理解が進んでいない状況にある。本震災を忘れることなく、継続的にエネルギー問題の本質を考える大変良い機会として捉えることで、エネルギー問題について考えを深めてゆく。また、国際的にもエネルギーの消費は増加するものと予測されており、その分配も含めての視点が重要となってくる。そこで本講義では、エネルギーの本質、さらに実際の課題について、自ら考えるための素材を紹介する。								
到達目標	日本および世界のエネルギーの現状について理解し、その上で、エネルギーに関する自らの認識・考えをしっかりと主張できること。								
授業外学修内容・ 授業外学修時間数	エネルギーを取り巻く環境は日々変化しており、また将来のエネルギー政策が議論となっているため、様々な情報源（新聞、雑誌、TV等）に注意し、1日30分以上は情報に接し自らの考えを整理しておくこと。（計60時間以上）								
授業計画	【第1回】 エネルギーの意義は？ 【第2回】 日本のエネルギー政策の行方は？ 【第3回】 省エネルギー法の現状は？ 【第4回】 再生可能エネルギー政策の現状は？ 【第5回】 地球温暖化政策の行方は？ 【第6回】 エネルギーと技術開発の関係は？ 【第7回】 エネルギーに関する国際協力の現状は？ 【第8回】 エネルギーと人口・経済との関係は？ 【第9回】 エネルギーとライフスタイルの関係は？ 【第10回】 日本のエネルギー政策の行方は？ 【第11回】 今後のエネルギー需給の展望は？ 【第12回】 エネルギーの課題は？ 【第13回】 エネルギーをどう使うか？ 【第14回】 今後のエネルギーの課題解決に向けて 【第15回】 まとめ								
成績評価の方法	授業での発言を重視し、期末に試験を行い、エネルギー問題に関して自らの考えをしっかりと主張するための基礎が身についているかどうかの観点から採点を行い、その結果に基づいて評価を行う。 なお、授業中の発言を成績に考慮する。								
フィードバックの内容	授業の中でクリッカー等により実施する質問やアンケートに対して、結果に関する講評、結果の分析、考えるポイント等を示すことで、さらに考察力を深める。								
教科書									
指定図書	『エネルギー・経済データの読み方入門』（財）日本エネルギー経済研究所 計量分析ユニット編（（財）省エネルギーセンター）2011年10月、『総力取材！エネルギーを選ぶ時代は来るのか』NHKスペシャル「日本新生」取材班（NHK出版）2011年12月								
参考書	『エネルギー・経済統計要覧』（財）日本エネルギー経済研究所 計量分析ユニット編（（財）省エネルギーセンター）各年版、『World Energy Outlook』O.E.C.D. International Energy Agency (O.E.C.D.) 各年版、『エネルギー問題』松井 賢一（エヌティティ出版）2010年2月、『エネルギー白書』経済産業省編（新高速印刷株式会社）各年版、『Energy balances of OECD countries』O.E.C.D. International Energy Agency (O.E.C.D.) 各年版、『Energy balances of non-OECD countries』O.E.C.D. International Energy Agency (O.E.C.D.) 各年版								
教員からのお知らせ	授業は、パワーポイント（共有ストレージにて公開）により実施する。また、一方的な講義ではなく、皆さんの発言・意見により活発な議論を歓迎する。 授業計画は、最新の話題も取り上げるため、若干の変更の可能性がある。								
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、授業終了後、次の授業に支障がない範囲で教室内にて対応します。 また、メールにて質問・相談を受け付けます。宛先は授業内で指示します。								
その他	皆さんの若い発想により、教員としても刺激を受けることを期待する。								